

# ラケットテニス競技規則

この度はラケットテニスボールをお買い上げいただき誠にありがとうございます。ラケットテニスボールは発泡ウレタンでできております。ご使用前に両方の手のひらで押し付けながら、回すようにして揉みますと、ウレタンの中の空気量が調整されほどよいバウンドでプレーが楽しめます。

## I. 用具

ラケット……専用ラケット  
ボール……専用ボールまたはソフティボール 70  
ポスト……バドミントン用ポスト  
ネット……バドミントン用または専用ネット

## II. コート

- (1)コートの大きさおよび名称は図の通りとする。
- (2)ネットの高さは90cmとする。
- (3)特別規則としてショートサービスラインを設けることができる。

## III. 役員の構成

ゲームは審判1名、線審2名で運営する。

## IV. 競技方法

### 1. 競技のあらまし

シングルスとダブルスがある。

#### ◎シングルス

まず、一方の競技者がベースライン後方から、ラケットでボールを打って直接相手側のサービスコートに入れる。レシーブ側は、サービスコートに入ったボールを、ワンバウンドの後、相手側コートに打ち返す。その後は、ワンバウンド後かノーバウンドのボールを相手側コートに打ち返してプレーを続ける。自陣のコートに入ったボールを受け損じたり相手側コートに返せない時は相手側に得点を与える。

#### ◎ダブルス

シングルスと同じ方法でやる。

### 2. 競技の細則

#### ①ゲーム

- (1) サービスか、レシーブまたはコートのいずれを選択するかは「ジャンケン」によって決める。
- (2) 1ゲームの勝敗は、4点先取した方を勝ちとし、5ゲームマッチを原則として行ない3ゲームの先取をもって勝ちとする。
- (3) 1ゲーム中に双方が3点ずつになった場合は、以後連続2点先取したものを勝ちとする。
- (4) コートは奇数ゲーム終了後、交替する。(チェンジコート)
- (5) ポイントおよびゲームカウントは、サービス側から得点を数える。
- (6) インサイドボールまたはアウトサイドボールは、落下したところで判定し、ラインに触れたものは全て有効とする。
- (7) 相手側から打たれたボール(サービスを除く)はワンバウンドの後、またはノーバウンドでネットを越えるかネットポストの外側をまわり相手側コートに打ち返さなければならない。
- (8) プレー中ボールがネットまたはネットポストに触れてもこれらを超えて相手側コートに入ったときは、有効とする。
- (9) 打ったボールが直接、木の枝や天井、照明器具、審判や審判台等、相手コート内の地面以外のものに当たったときは打った側の失点となる。
- (10) ショートサービスラインを採用するコートでのゲームを進めるに当たって、独自の規則が適用される。  
★プレー中のボールを、ショートサービスラインに触れ、もしくは踏み越えて、バウンド前に打ち返した場合には、返球のいかんに関わりなく1ポイントの失点とする。ただし、インパクト後の踏み越えは失点とはならない。  
★サーブしたボールが指定されたサービスコートに届かず、ショートサービスラインよりもネット寄りの地面に落ちた場合は、これをフォールトとする。
- (11) プレー上の主な反則はフットフォールト、ネットタッチ、オーバーネット、ドリブルとするが、細部についてはテニスのルールに準じて行う。

#### ②サービス

- (1) サービスは、ネットに向かって右側(ライトコート)のベースラインの後方から始め、右左交互に対角線上の相手方サービスコート内にボールを打ち込む。
- (2) サービスは、トスしたボールをベースライン後方から直接相手側のサービスコートに入れる。
- (3) サービスは、2回としネットイン(レット)の場合はやり直す。
- (4) 最初にサービスしたプレーヤーは、そのゲームが終了するまでサービスを続け、相手チームは、必ず交互にサービスを受ける。
- (5) サービスは1ゲームごと相手側と交替する。(チェンジサービス)
- (6) ダブルスの場合は、同一人が1ゲームを通してサービスを行い、次のサービスゲームのときはパートナーと交替する。
- (7) レシーバーは、サービスコートに入ったボールをワンバウンドの後、相手側コートに打ち返す。

